

「授業研究 ～協働してつくる授業～」

本校では「チームとしての平野支援学校」の実現をめざし、質の高い教育の提供、授業改善と協働の促進をすすめている。

本校は、児童生徒の実態にあわせた学習グループ編成を行っており、学年やクラスを超えて担任以外の教員が授業の主指導（メインティーチャー）を行う場面がある。そのため、授業計画においてはサブティーチャーと児童生徒の情報共有や目標の達成に向けた支援の手立ての共有をすること（協働）が必要不可欠になる。

今年度は研究授業を通して、教員それぞれが役割を担い、補い合い、教材や目標、支援の手立てなどについて意見交換を重ねながら授業づくりを進める。

取り組み内容

1. 「本校におけるキャリア教育とひらのキャリアプランについて」（5月・動画研修）

目的 ・ひらのキャリアプラン（本校版キャリアプランニングマトリックス）の各領域の内容について知る。

内容 ・マトリックス構成のポイントについて
・4領域（情報活用能力・将来設計能力・人間関係形成能力・意思決定能力）について
・授業で活用できる事例紹介

2. 「指導案について」（6月・集合研修）

目的 ・指導案の基本的な書き方およびキャリア教育の観点を含む指導案（本校の指導案様式）の書き方を知る。
・今年度の研究テーマ「授業研究～協働してつくる授業」の意義と取り組み内容、授業見学時のポイントについて知る。

内容 ・今年度の研究テーマについて
・指導案の書き方について
・校内研究授業実施の流れについて
・授業見学時のポイントについて

3. 指導案の作成（7月～12月・授業主担のある全教員が提出）

目的 ・指導案作成を通して、学習目標、教材、指導方法を具体化する。
・児童生徒の実態に合わせた指導や支援を検討する。

内容 ・担当授業について、本校様式で作成

4. 校内公開研究授業

目的 ・教材や目標、支援の手立てなどについて意見交換を重ね、授業を設計する。

内容 ・指導案の検討（会議日として3回設定）

- ・当該学部、他学部の授業を見学
- ・研究授業総括会（学部内）

研究授業一覧

| | 対象 | 教科 (授業名) | 単元名 | 授業者 (年次研修) |
|---|--------------------------|-----------------|-----------------------|-----------------|
| 1 | 小学部 1・2年 | 国語・算数 (おはなし) | コロちゃんはどこ？ | 浦本 桃香 |
| 2 | 小学部 3・4年 | 国語・算数 (おはなし) | 昔話に親しもう (ももたろう) | 宮川 千晶 (10年次) |
| 3 | 小学部 5・6年 | 図画工作 (つくる) | ねんどであそぼう ～つくろう！ピザ～ | 小林 祐樹 (初任) |
| 4 | 中学部 3年Aグループ | 美術 | 陶芸 ～生活用品を作ろう～ | 吉田 貞子 (10年次) |
| 5 | 中学部 1・2・3年 A Bグループ | 保健体育 (体育) | ラグビーの試合を しよう | 崎濱 真人 |
| 6 | 高等部 A B 1 | 保健体育 (体育) | 野球 | 千田 圭佑 (10年次) |
| 7 | 高等部 B 2グループ | 保健体育 (体育) | ゴルフ | 福井 亮将 (初任) |
| 8 | 高等部 C D Eグループ | 保健体育 (体育) | サッカー | 橋本 万以子 |

5. 研究授業総括会（12月・分科研修）

目的 ・他学部教員との意見交換を行い、個々の授業力向上をはかる。

内容 ・授業者からの振り返り（授業動画の確認等）、その後の変化など

- ・アドバイスについて
- ・授業者が決めたテーマについて意見交換
- ・授業における教員の協働について

意見交換のテーマ一覧

| | |
|------|---|
| おはなし | ・児童生徒の認知に差がある学習集団で、どのように工夫して授業をしているか ・見えにくさがある児童生徒に国語・算数の授業をするにあたり、どのような工夫をしているか |
|------|---|

| | |
|-------|---|
| つくる | ・自発的な動きが少ない児童への支援方法について ・児童生徒の興味関心をひく授業づくり |
| 体育（１） | ・重度の児童生徒の体育（球技）の実践について |
| 体育（２） | ・児童生徒の意欲を引き出す工夫について |

6. 「実践報告会」（2月・集合研修）

目的 ・研究テーマに関連した各学部の教育実践の報告を行うことで、本校の今年度の取組みについて共有するとともに、学部間の理解を深め、教員同士の学びあいの機会とする。

内容 ・研究授業の報告
・評価表、総括会での意見やアドバイスをもとに改善した授業実践事例の発表
・協働の実践事例

まとめ（考察と今後の課題）

今年度は研究授業をとおして、教員それぞれが役割を担い、補い合い、教材や目標、支援の手立てなどについて意見交換を重ねながら授業づくりを進めてきた。取組み後の教員向けアンケートでは、「協働して授業づくりができた」の肯定的回答率は95.8%であったが、「協働」が今やっていることとどう違うのか、何を取り組めばいいのかわからないという意見もあった。今回研究テーマとして取りあげること、「協働」した授業づくりについてさらに意識付けしたいという意図があった。

また、昨年度本校で作成した、キャリアの観点を取り入れた学習指導案のアンケートでは、「キャリアの観点について難しいと感じた」と多数の回答があり、様式の再検討やキャリア教育について理解を深めるための取組み等が必要であることが分かった。さらに、「単元の評価規準、児童生徒の実態と本時の目標で難しいと感じた」と複数回答があり、研修等で課題を解消していく必要があることが分かった。

来年度に向けて

授業研究という研究テーマは継続し、その中でもどのようなことに取組んでいくのかをサブタイトルとして提示する方がめざす方向性がわかりやすいと考えている。今年度の取組みをとおして、アンケートでは「支援の仕方やねらいが主担の意図とずれるときがある」「サブティーチャーとのコミュニケーションを積極的に取る、情報共有が一番重要で一番時間がかかる」など、メインティーチャーとサブティーチャーの連携についての意見があがった。

このことから、次年度は授業を作り上げる中でのメインティーチャーとサブティーチャーの連携に重点を置いて、授業研究を進めていきたい。

参考：本校の指導案様式

「〇〇」(〇〇) 学習指導案

府立平野支援学校

T 1 〇〇 〇〇

T 2 〇〇 〇〇

1. 日時 令和〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇時限 (〇〇:〇〇~〇〇:〇〇)
2. 場所
3. 学部・学年・組 〇〇部 第〇学年 〇グループ 〇名
4. 単元(題材)名 「〇〇〇〇」
5. 単元(題材)目標
 - ・(知識及び技能)
 - ・(思考力、判断力、表現力等)
 - ・(学びに向かう力、人間性)

6. 児童生徒観

7. 教材観

8. 指導観

9. 単元(題材)の評価規準

| A 知識・技能 | B 思考・判断・表現 | C 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------|------------|-----------------|
| ① | ① | ② |
| ② | ② | ② |

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全○時間、本時は第○時）

| 次 | 時 | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 (評価方法) |
|---|---|------|------|---------|----------------|
| | | ・ | ・ | ・ | ・ |
| | | ・ | ・ | ・ | ・ |
| | | ・ | ・ | ・ | ・ |
| | | ・ | ・ | ・ | ・ |

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

・

(2) 本時の評価規準

・

(3) 本時で扱う教材・教具

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

| | 児童生徒の実態 | 本時の目標 | 支援の手だて | 評価規準 |
|---|--|-------|--------|------|
| A | <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：</p> <p>・</p> <p>(項目：)</p> <p>【育てるライフキャリアの力】</p> | | | |
| B | <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：</p> <p>・</p> <p>(項目：)</p> <p>【育てるライフキャリアの力】</p> | | | |
| C | <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：</p> <p>・</p> <p>(項目：)</p> <p>【育てるライフキャリアの力】</p> | | | |
| D | <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：</p> <p>・</p> <p>(項目：)</p> <p>【育てるライフキャリアの力】</p> | | | |

(5) 本時の学習過程

| 時間 | 学習内容・学習活動 | キャリアの領域・観点 | 指導上の留意点及び 支援の手だて等 | 評価規準 (評価方法) |
|-----------|-----------|------------|----------------------|----------------|
| ○分 導入 | | | | |
| ○分 展開 | | | | ・ |
| ○分 まとめ | | | | |

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

| |
|--|
| |
|--|

「本時の目標」と「児童生徒の目標」シート

〇〇部〇年〇グループ 研究授業 教科（ ）

| (1) 本時の目標 | (2) 対応するキャリアの観点（0～2つ） |
|---------------|-----------------------|
| 【知識・技能】 | |
| 【思考力・判断力・表現力】 | |
| 【学びに向かう力】 | |

| | (3) 児童生徒の育てる力 (本時の目標に対応するキャリアの観点に下線) | (4) 児童生徒の目標 |
|---|---|-------------|
| A | | |
| B | | |
| C | | |
| D | | |

ひらのキャリアプラン（平野支援版キャリアプランニング・マトリックス）

Ver.2 (2024.3.11)

| | |
|-------|--|
| キーワード | 児童生徒：他人からの支援を上手に活用しながら、だれとでも、どんな場所や状況でも、自分らしさを発揮して生活できる人になる 教員：児童生徒の将来・生涯を見据え、「暮らす力」「楽しむ力」「生きる力」を育む |
|-------|--|

| 能力領域 | | 育てる力 | | | | | | | |
|--|--------------------------------------|---------------------------------|--|--|---|---|--|---|---|
| | | ステップ1 | | ステップ2 | | ステップ3 | | ステップ4 | |
| 情報活用能力 いま必要な情報を選んだり集めたりして、自分の判断や安全のために役立てていけるようにしていく領域 | A 五感による手がかりを活用して自己選択や行動調整ができる | 場の雰囲気や様子の変化を感じる力 | 諸感覚の気づきと受け入れ（音・リズム・光・色・形・大きさ・香り・味・手ざわり・重さ等） | 手がかりを見つける力 | 言葉かけを受け入れたら、理解したりする自分と他者との区別がつく | 今必要な情報を選び取って行動に役立てる力 | 指示を聞く、必要なもの・使えるものを見つける正しいこと、間違っていることを理解する | 今必要な情報を選んだり自ら集めたりして、次の行動や意思決定に役立てる力 | 文章を読んで理解できる 段落との違いに気づき、指図したり行動したりする |
| | B 外部からの情報を自己防衛や危機回避に使える | | 自身の内部からの刺激への気づき（痒み・不調・空腹・満腹・喉の渴き等） | | 防衛行動をする（目をつむる・頭を押さえる・払いのける等）「痛い」「熱い」などの感覚語を表現する | | 回避行動をとる（危険を察知して離れる、ブレーキをかける等） | | 情報を読み取る（「立入禁止」「危険」「消費期限」等の表記がわかる） 環境を改善する（快適な場所へ移動する、指さすに気づいて明かりを点ける等） |
| | C 体内からの刺激に適切に対応できる | | 感情に気づく（イライラ・驚き・恐怖・恥ずかしさ等） 自分の意見や欲求を他者に伝える | | 感情に気づく（イライラ・驚き・恐怖・恥ずかしさ等） 自分の意見や欲求を他者に伝える | | 体内刺激に対処する方法を持つ（お茶を飲む、トイレへ行く） | | 予防・回復のための行動を自らとる |
| 将来設計能力 先を見通して行動に必要な準備を前もってできるようにしていく領域 | A できあがりやになりたい自分がわかった上で取り組める（夢や希望） | 感じる | 諸感覚の気づきと受け入れ（音・リズム・光・色・形・大きさ・香り・味・手ざわり・重さ等） | わかる | 言葉かけを受け入れたら、理解したりする | 見通しが持てる | 言葉かけや視覚提示物等で完成形を想像し、近づけようとする | 目標や計画をたてる | 完成形や将来について自ら思い描いたり、実現のために何をすればよいか考えたりする |
| | B やるべきことがわかった上で準備できる（心の準備や構えの形成） | | | | | | | | 言葉かけや視覚提示物等で安心して見通しを持ったりすることができる |
| 人間関係形成能力 社会（集団）のなかにおける自分の立場や役割をつけていく領域 | A 社会（集団）のルールやマナーに従える | 信頼 関わりを受け入れ周囲に働きかける負の感情を取り除く | 共同注意ができる共感する | 意識 集団参加 多くの人から支援を受け入れるやってみる、やってみよう | 集団行動の中で状況に応じた行動をとる 集団参加の手順や決まりがわかる | 目的 人や場面に適応 他者との協力 積極性 したい目的がわかる | 集団活動への積極的な参加 | 有能感 役割立場の自覚 他者を大切にしたい行動 他者との比較 劣等感の克服 | ルールやマナーを守る |
| | B 親や担任以外の人にも応じられる（介助・支援の受け入れ） | | 人を区別する表情を真似る 人に対する信頼感を持つ | | 他者に興味を持つ | | 様々な他者に関心を持つ 必要なコミュニケーションをとる | | 承認を強く求める 自信を持ち、誰にでも自分の考えや気持ちを伝えることができる |
| | C 気持ちを表現したり訴えられたりする | | 怒り、悲しむ、恐れ、不快を表現する 快、不快を区別する 発音する | | 感覚語の表出 伝える手段の拡充 | | 感情を理解して表出する エピソード記憶ができる 伝えたい内容の拡充 | | 他者に伝わりやすいように表現する 自分の気持ちや考えを整理する |
| | D 協力できる（協働する） | | | | 自分のことができる 同年代の子どもへの興味を持つ 大人からの支援を受け入れる | | 自分の衝動をコントロールする 自己決定することができる 共同遊びの増加 協力動作の定着 | | 他者の立場を考えたり思いやったりする 主体的に参加しながらも客観的な視点を持ち、建設的な話し合いができる |
| 意思決定能力 自らの意思と責任で、よりよい選択・決定を行なうとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する領域 | A 支援を受けながら自分で答えを出したり実行したりする | 自分の存在をアピールする力 周囲への関心 | 目の前のもの（に手を伸ばして）を選択する | 自己を知り、まわりに意思を伝える力 やる気 | ひとりやってみようとする | 自分で選んだり実行したりする力 | 情報・経験をもとに判断する（できる・できない） | 身につけた力や得た情報を活用し、より良い選択や行動をとる力 課題に向き合い、乗り越える力 | 情報や経験をもとに自分で答えが出せる |
| | B 条件や制限があっても選べる（譲歩・妥協） | | 快・不快の区別 快・不快を表現する | | 他者と分け合う、順番を守る | | 自分の衝動をコントロールする | | 予定やルーティンの変更など見通しがもてない場面でも落ち着いていられる |
| | C 悩んだり葛藤したりした上で気持ちを整える（好奇心・挑戦） | | 興味や好奇心を培う 共同注意 | | 自分の意見や欲求を伝える | | 新しい物事への挑戦に自信や積極性を見せる | | 困ったことや予想外の出来事があっても、気持ちを整えて対応する |